

サイバーセキュリティに係る人材の確保、育成、活躍の促進に係る主な政策課題

R2.7.31 事務局

課題1:サイバーセキュリティ確保のための新たな開発・監視・対処体制の構築

< 当面検討を深めるべき論点(例) >

- ① xSIRT(例えば、PSIRT、FSIRT、DSIRT/SSIRT)ごとに特徴的な機能や体制等はあるか。また、それらの構築や普及にあたっての課題は何か。
- ② DX に伴いデジタル・サービスが増加する際に重要となる開発・監視・対処のプラクティスとは何か。その実現にあたっての人的資源・体制につき考慮すべきことは何か。

課題2:DXに必要な「プラス・セキュリティ」知識を補充できる環境・人材育成の推進

<当面検討を深めるべき論点(例)>

- ① ユーザ企業の主体的な IT 活用・DX 実施において経営・事業を担う者が「プラス・セキュリティ」知識を補充できるよう、対象人材(例えば、ユーザ企業において経営を担う者(CxO 等)と事業を担う者(部課長クラス等)を分けて考えるなど)に応じてどのようなモデルカリキュラムが考えられるか。

- ② カリキュラムの構築や普及をいかに政策的に後押ししていくか。(普及啓発と関連する観点もあるため、中小企業や地域を含めた展開も考えられるのではないか。)

課題3:セキュリティ人材の活躍の促進に向けた流動性とマッチングの機会の促進

< 当面検討を深めるべき論点(例) >

①DX 時代における IT・セキュリティ人材の流動イメージ(モード)と、それぞれに応じたマッチング促進策は何か。

②人材の流動性とマッチングの促進策をどのように政策的に後押ししていくか。

※その際、サイバーセキュリティ教育(高専等)と産業界の求める人材像をどう整合していくかなど「人材育成プログラムの量と質」との関連も考慮し、全体を見渡しつつの議論も重要と考えられる。